

第4回洋上風力発電ゾーニング協議会 議事概要

日時：令和元年6月20日（木）13：30～16：00

場所：久慈市役所 車庫棟3階 会議室

出席者：三宅座長、北澤委員、浦委員、佐野委員、志田委員、山田委員、山本委員、
向委員、晴山委員、福地委員、阿部委員、小倉委員、嵯峨委員

1. 主な議事

○事務局より、第3回洋上風力発電ゾーニング協議会の振り返り、今年度スケジュールと到達目標の提示、調査等の実施状況の報告、先進調査の予定について説明を行い、協議会メンバーにより意見交換を行った。

【説明内容】

- (1) 第3回洋上風力発電ゾーニング協議会の振り返り
- (2) 今年度スケジュールと到達目標
- (3) 調査等の実施状況
- (4) 先進調査の予定

2. 主な意見・質疑等

【議事（1）関係】

○風車の形式としてどのようなものを想定しているか。

→明確には決めていないが、浮体式を想定している。今後詰めていきたい。

○ヒアリングの結果から、漁業で利用がある場所は促進エリアにしないでほしいということか。

→一番問題になる部分のため、早い段階で漁業者と話をする必要があると思う。

→趣旨としてはそうだと思う。直接の利用だけではない面もあり、漁船漁業者協議会で話をしっかり聞きたいと考えている。漁協からのアドバイスとしても、そこで色々な意見が出ると思うということだった。漁協を通して連絡を取り、7月早々に漁船漁業者協議会と協議を行う予定である。

○5年もすれば、東北のあちこちで洋上風車が建っていると思う。どこにでもあるということになれば、観光資源としての魅力が減ると思う。実際に観光で役立っているところなど、海外の事例を収集してみたい。

→調べてみる。海外の事情など、浦先生からも情報があれば提供してほしい。なお、五島市の例では観光協会が段取り、洋上風車を見るクルージングや漁協へのヒアリングなど、視察を組み込んだパックを設定している。また、風車を直接の観光とするのではなく、風車以外の観光の素材を利用した地域おこしの例も調べてみたい。

【議事（2）関係】

○メンテナンスを想定し、それぞれのエリアに行くまでにかかる時間を教えてほしい。

→鳥類調査時の感覚として調査時はゆっくりした速度であるが、行って帰るだけで午前中いっぱい

いはかかった。距離がその半分のであれば、時間も半分となる思う。

○景観の見た目について、風車の土台は黄色で目立つ色のはず。

→写真の印刷は見えづらいが、黄色くしている。

○3年目に作成する配慮書相当とは、事業者が配慮書をつくらなくてもいいという意味か。アセスの短縮化ということであれば、前倒し調査までやっておくということか。ゾーニングの最終成果の方針について、今後の検討にかかわるため環境省に早めに確認してほしい。

→環境省も明確に示していない。しかし、現在の計画から配慮書相当という言葉は消えており、ゾーニングが仕組みとして成立するかを主として置いているようだ。3年目の在り方について、環境省と相談が必要だと考える。

○導入目標について、10年の間に久慈市での電力需要が減るのではないか。また、発電効率が上がって技術力が進めば、必要な風車の数も変わるのではないか。あまり大きなものをつくってしまうと、実際そこまで必要なかったということになりかねない。

→今年の2月6日に横浜市と再生可能エネルギーに関する連携協定を締結した。カーボンゼロに対する取組みを横浜市が行っているが、単体の取組みでは難しく、北東北の12の市町村と再生可能エネルギーの余剰分を横浜市に供給するという締結である。それも加味することが必要だと思う。

→重要な考え方であり、本検討でも考慮してほしい。

○洋上風車169MW分を1か所にファームとして設置するのか、それとも分散して設置するのか。

→今後配慮書相当の中で複数案検討すると考えている。1か所にまとめて設置しないといけなのか、分散するとコストがかかるのか、できるのであればどう設置すればいいのか、といったことがある。

○エリア②～④は水深50mか。係留があると漁業と協調は難しい。

→エリア②からは水深50m以深となる。

○静岡の洋上風力の計画は12,000kWの風車と聞いている。大型風車だと基数が変わると思う。

漁業的にも環境的にもエリア④はデメリットが少ないと感じるが、組み合わせると現実的な場所に設定すべきである。

○災害時などに複数の送電線をとれるようにしておいた方がよいという考え方もある。複数の送電線の案も出すと良いのではないか。

→専門家の意見も聞いて検討が必要である。漁業協調という観点から着床・浮体でどこまで可能なのか、あらゆる可能性を排除せず検討したい。

【議事(3)関係】

○4ページを見ると保全エリアにすべきではないか。6ページのウミネコ等の集団繁殖地も保全エリアにすべきではないか。アビ類も5kmまで多く、保全エリアにすべきではないか。ウミスズメ類も保全エリアとして検討すべきである。ミサゴやハヤブサも沖に出てくるので、バードストライクの可能性があり、保全エリアとして検討してほしい。

→猛禽類の飛翔・高度も併せて検討したい。

○飛翔高度は繁殖など状況や時期によって変わるので、ゾーニングの段階では考慮しなくても良

いのではないか。

→引き続き検討する。

○魚類は底層の種が多く、浮体式の洋上風車では魚礁のような効果は得られないのではないか。

→今後検討する。

○大丈夫だと言われた高さでバードストライクがあったという話も聞いたりする。ゾーニングの段階では、高さを判断材料にはしない方がいいかもしれない。

○着床式であれば、ソイ類やメバルに効果が期待できるという意味か。

→調べたことはないのだが、完全に浮体式だと、底生魚に対して効果が期待できないのかなと思った。

○みちのく潮風トレイルは、自然景観はもちろん、人里の風景や産業を包括して楽しんで歩くというコンセプトであり、その中に風力発電があってもよいと思う。眺望点の侍石や横沼展望所と上手くバランスをとる必要がある。

○市民アンケートで、最も多いのは人間生活に関わる場所だが、動物についても割合が高い。自然環境や動物に関心があり、配慮を求める意見が多いという印象を受けた。ゾーニングにも取り入れなければならないと思う。

○自由記入を見ると条件付き賛成や情報が少ないから判断できないという意見が多くあり、集計結果だけで単に賛成が多いとしてはいけないのではないかと感じた。協議を重ねながら、もっと住民の理解を得られるようにすることが必要である。

【議事（4）関係】

特に意見無し。

【まとめ】

○自衛隊の立場からは、風車の柱がレーダーに障害が無いか重要である。青森県での洋上風力発電については、今でも1対1で協議をしている。ゾーニングの早い段階から協議の場を持たせていただきたい。

○希少種や地形について検討していると感じた。実現に向けてやってほしい。久慈港を使うとなると、対応を考えたいので、色々教えてほしい。

○今回は大臣許可の海域の話はなかったが、今後関わる部分であり、大変な部分だと思っている。

○再エネ海域利用法に基づき国への情報提供があり、洋上風力の適地情報を岩手県からは久慈市を含む2地域をあげている。県として情報提供をしていることについて報告である。

○環境省としては、再生エネルギーの推進と国立公園・環境保全の両面に関わりたい。

○調査が進むほど適地エリアが狭まっているように思うが、成功できるよう皆で協力していきたい。

○五島市の訪問に観光協会としても参加して、観光と結びつけについて聞きたい。

○調査や市民アンケートの結果が参考になった。陸上と洋上のコストの面と環境への配慮の面をクリアできれば非常にいいと思った。

- 漁業者への意見聴取をしっかりとしてほしい。漁船漁業者協議会ももちろん大事だが、同じくらい漁協本体である組合長をはじめとした漁協理事の了解も大事である。丁寧な説明をお願いしたい。また、教育旅行にも力を入れており、そういった面で期待をしている。
- 市民の生活と環境面について、部署に持ち帰り丁寧に報告したい。
- 部署でエネルギー、港湾、企業誘致を行っている。洋上風力については部品も多く、メンテナンスについても裾野が広い。事業に期待している。
- ゾーニングの幅がどんどん狭まっている。日本全国どこでも同じ状況であるが、久慈市が選ばれているという意義を考え、良い解決策を出していきたい。
- 場所が絞られてくるとお互いの利害が出てきて大変であるが、色々な人の意見を聞いて、丁寧に進めてほしい。
- アンケート結果から、市民にも市としてのエネルギー政策の取組みをシンポジウムの開催などから知ってもらい議論してはどうかと思った。
- 教育旅行の考え方として、洋上風力だけでなく、石油、風力、ソーラー等色々な発電のパッケージで考えてもいいのではないかな。
- 景観の観点からは、沖側 10km まで離れると見えない日が多いのではないかなと思った。小さいものを港内に置くのであればもっと考えなくてはいけないと思う。
- 沖に行くほど地震で崩れているかどうか判断できるだけの情報がない。難しいと思うが、漁業者の操業のデータをどこかで持っていれば活用できないだろうか。
- データを持っているところもあるかもしれないが、公開してもらえないかわからない。

【その他】

- 次の第5回協議会は11月を予定する。

以上